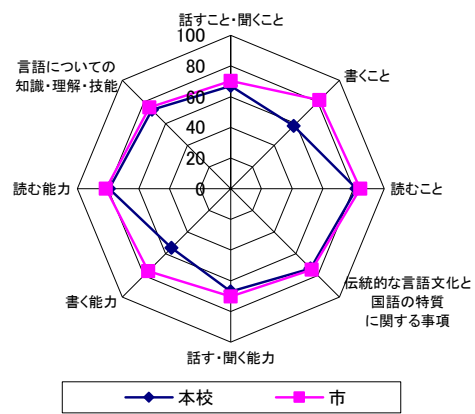


宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	67.0	70.3	68.2
	書くこと	57.9	81.7	80.6
	読むこと	81.9	84.3	84.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.6	74.7	72.7
観点別	話す・聞く能力	67.0	70.3	68.2
	書く能力	54.5	76.0	74.1
	読む能力	79.3	81.3	81.1
	言語についての知識・理解・技能	72.7	74.9	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

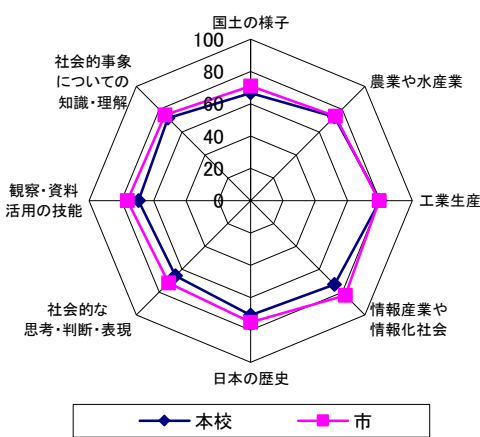
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・校内正答率は、市の平均より－3. 3ポイントでほぼ同じであった。 ○「与えられた情報を読み取り、話合いの観点に基づいて情報を関係付けることができる。」の校内正答率は市の平均と比較して8. 2ポイント高い。児童の生活に身近な縦割り班についての設問であったため、正答率が高くなったと考えられる。 ●「司会者の役割を理解して、計画的に話し合えることができる。」の校内正答率は、市の平均よりと比較して16. 7ポイント低い。	・児童の実態から必要性のある課題を取り上げ、話合いに必然性をもたせるなどの工夫をするとともに、司会者や発表者などの立場や意図を明確にして、話合いができるように指導する。その際、計画的に話合いを進めていけるように、話し合う内容や時間配分などについて、指導していく。
書くこと	・校内正答率は、市の平均よりも－23. 8ポイントで低い。 ●「指定された長さで文章を書くことができる。」の校内正答率は、55. 0%で市の平均と比較して30. 1ポイント低い。 ●「2段階構成で文章を書くことができる。」の校内正答率は、50. 1%で市の平均と比較して31. 5ポイント低い。	・日頃から、国語以外の教科でも自分の考えを文章で表現できるよう、意図的に機会を作っていく。また、長さや段落構成などの与えられた条件の中で文章を書く活動を繰り返し、書く力の向上を図っていく。
読むこと	・校内正答率は、市の平均よりも－2. 4ポイントでほぼ同じであった。 ○「登場人物の心情を読み取ることができる。」の正答率は95%で市の平均と比較して2. 2ポイント高い。日頃の人物の心情理解の指導の成果であると考えられる。 ●「文章の内容を的確に読み取ることができる。」の正答率は77. 8%で市の平均と比較して7ポイント低い。	・教科書の説明文を活用して、読み取りの力を付けていく。また、接続詞やその役割、段落ごとの要点や段落構成を学ばせることで、内容を的確に読み取る力や構成を押さえる力を高めていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・校内正答率は、市の平均よりも－1. 1ポイントでほぼ同じであった。 ○漢字の読みでは、校内正答率は市の平均と比較して5. 1ポイント高いが、漢字の「書き」では、校内正答率が市の平均と比較して7. 1ポイント低い。「読み」については、宿題や朝の学習を活用し、繰り返し練習に取り組んだ成果であると考えられる。 ●「国語辞典の使い方を理解している。」の校内正答率は60%で市の平均と比較して6. 4ポイント低い。	・漢字については、特に漢字の「書き」を繰り返し漢字ドリル等で継続指導し、定着を図る。 ・日頃から意味調べ等で国語辞典を使う活動を多く取り入れ、辞典を活用できるように指導する。

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	66.7	71.0	69.4
	農業や水産業	73.3	74.0	69.0
	工業生産	80.0	79.4	75.4
	情報産業や情報化社会	73.3	82.8	88.7
	日本の歴史	70.8	75.2	72.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	65.7	71.9	67.2
	観察・資料活用・技能	69.4	76.3	70.7
	社会的な事象についての知識・理解	72.3	75.1	73.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

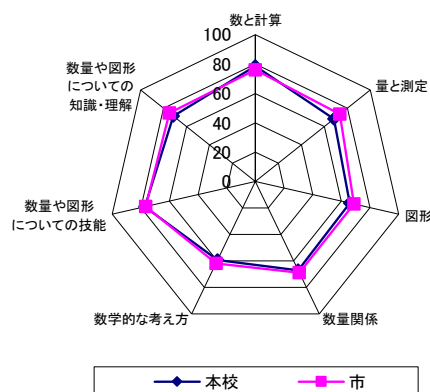
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	・校内正答率は、市の平均より－4.3ポイントでやや低い。 ○「日本の周辺の海洋名の理解」の校内正答率が93.3%で市の平均より13.8ポイント高い。 ●「公害について理解している」は、校内正答率が46.7%で、市の平均より15.1ポイント低い。	・四大公害病について整理しながら復習し、公害が国民の健康を脅かした理由や環境保全を考えて国土を開発していかなければならないことについて、ノートや新聞等にまとめるよう指導する。
農業や水産業	・校内正答率は、市の平均より－0.7ポイントでほぼ同じであった。 ○「稲作の工夫や努力についての資料の読み取り」は、校内正答率が96.7%で、市の平均と比較して8.5ポイント高い。 ●「日本が食料確保においてかかえる問題について考える」は、校内正答率が40%で、市の平均と比較して9.3ポイント低い。 ●「47都道府県の名称と位置」については、校内正答率が80%だが、市の平均と比較して4.2ポイント低い。	・47都道府県について地図で名称や位置を確認したり、日本の食料生産について、外国産の食料との関連を考えながら資料を読み取る学習を取り入れて継続して指導していく。
工業生産	・校内正答率は、市の平均より＋0.6ポイントでほぼ同じであった。 ○「工業製品の分類・整理」の校内正答率が70%で、市の平均と比較して5ポイント高い。 ●「環境保全のための工夫や努力について考える」は校内正答率が90%であったが、市の平均と比較すると3.9ポイント低い。	・今後も、日本の工業地帯や工業地域の特色について、生産量や環境問題などと関連付けて考えたり、地図や表を用いてまとめ比較したりする指導を継続する。
情報産業や情報化社会	・校内正答率は、市の平均より－9.5ポイントでやや低い。 ●「医療現場での情報ネットワークの活用でサービスが向上したことに関して、資料を読み取って考える」ことは校内正答率が53.3%で、市の平均と比較して17.8ポイント低い。	・資料の読み取り方について、資料を使って復習をするとともに、社会における情報産業の重要性や利用の仕方、情報化社会について考察するような指導をする。
日本の歴史	・校内正答率は、市の平均より－4.4ポイントでやや低い。 ○「聖徳太子が定めた十七条の憲法の目的についての理解」は校内正答率が80%で、市の平均と比較して21.5ポイント高い。 ●安土桃山時代から明治・大正時代までの歴史については、校内正答率が、市の平均と比較して約10ポイント低いものが多い。	・安土桃山時代から明治・大正時代までの史実や歴史上の人物について、時代背景と関連づけて系統的に理解できるよう、年表や新聞などにまとめるなどの指導を継続する。板垣退助と国会開設については、現在の国会と比較し関連付けて考えてまとめるような指導をしていく。

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	78.6	76.1	73.5
	量と測定	68.3	73.6	70.1
	図形	65.8	68.8	66.6
	数量関係	67.1	68.9	64.5
観点別	数学的な考え方	59.4	61.8	54.9
	数量や図形についての技能	77.2	76.7	73.2
	数量や図形についての知識・理解	71.5	75.0	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

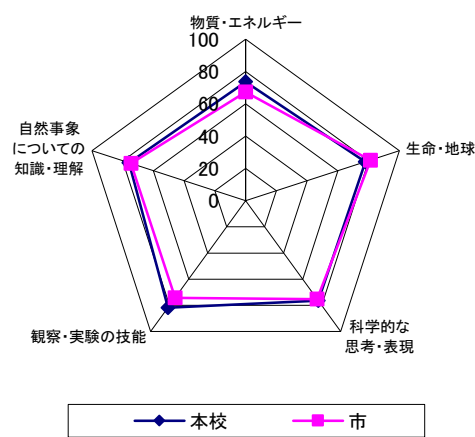
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、他の領域を上回っており、市の平均とほぼ同じであった。 ○計算については、分数の計算の正答率がほぼ100%となっている。これは、単元の学習以外にも定期的に宿題で問題を解いたことにより定着したと考えられる。 ●図を使って小数の除法の文章問題に合った式を選ぶ問題では、乗法の式を選んでいた誤答が多く、図を用いて数量関係を考えることに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な計算の定着には、その単元の学習が終わっても、宿題や朝の学習を活用して定期的に問題を解くなど、定着が図れるまで継続的に指導する。 ・図を用いて考えたり説明したりする力を育むために、数量関係を図で表す活動や図を読み取って立式する活動を積極的に取り入れる。
量と測定	平均正答率は、市の平均を比べて低い。 ○直方体の体積を組み合わせた形の体積を求める問題では、平均正答率が80.0%と市の平均を5ポイント以上上回っている。これは体積を求める応用問題を繰り返し解いた成果だと考えられる。 ●面積と人数の割合を求め、どのグループが最も混んでいるかを考察する問題において、平均正答率が40.0%と市の平均を15ポイントも下回っており、人数の多い選択肢を選ぶ誤答が多かった。このことから、面積と人数から単位量あたりの大きさの考え方をを用いて比較することに課題が見られることがわかる。	・複雑な形の体積を求める問題に対して、まずは既習の立体を見つけ、その組み合わせに分けて考えられるように指導する。また、円柱や角柱の体積を求める際には、「底面積×高さ」と立式するために、まず底面積部分を捉えることが大切であることを指導する。 ・単位量あたりの大きさにおける混み具合を求める問題では、「1面積あたりの人数」と「1人あたりの面積」の区別をつけて立式できるようにするばかりではなく、数が多い方が混んでいると短絡的に答えることのないよう、立てた式から出される数の意味まで押さえて指導する。
図形	平均正答率は、市の平均とほぼ同じであった。 ○六角形の内角の和を求める式を選ぶ問題では、平均正答率が市の平均を10ポイント以上上回っている。これは多角形に対角線を引き、三角形のいくつ分かを捉える練習を繰り返した成果だと考えられる。 ●線対称な図形の対応する点を見つける問題において、平均正答率が40.0%と市の平均を7.9ポイントも下回っており、図上の向かいあった点を選択肢を選ぶ誤答が多かった。このことから、対称の軸が斜めになった際の対応する点を選ぶことに課題が見られることがわかる。	・多角形の内角の和を求める問題では、「$180^\circ \times \text{三角形の数}$」の式が立てられるようにするために、図形に対角線を書いて三角形に分けることを徹底的に指導する。 ・対応する点や辺を見つけるためには、対称の中心や対称の軸を基準に考えることの定着を図るために、習熟度学習や少人数指導を有効に活用し、つまづいてる原因を見極め、個別指導の充実を図る。
数量関係	平均正答率は、市の平均とほぼ同じであった。 ○反比例についての表を読み取る問題では、平均正答率が市の平均を6ポイント以上上回っている。これは反比例のきまりである$X \times Y = \text{定数}$がきちんと理解できるように繰り返し問題を解いた成果だと考えられる。 ●円グラフから割合を読み取り、比較量を求める問題において、平均正答率が市の平均とほぼ同じであるが、66.7%と定着が図れていない。割合に数字をそのまま選んだ誤答が多かった。このことから、円グラフを読み取り、もとにする量×割合＝比べられる量に当てはめて立式することに課題が見られることがわかる。	・比例、反比例では必ず定数があることを押さえ、表から定数を見つけ、立式できるようになるまで指導する。 ・割合の問題では、円グラフから割合を読み取り、立式できるように指導する。また、比べられ量、もとにする量、割合を求める公式の定着を図るためにそれぞれの相互関係を表した図を示し、視覚的にも立式できるように指導し、定着を図る。

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	73.6	67.3	64.4
	生命・地球	77.9	81.3	80.3
観点別	科学的な思考・表現	76.5	75.3	72.6
	観察・実験の技能	81.8	74.4	73.5
	自然事象についての知識・理解	75.9	74.7	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・校内正答率は、73.6%で市の平均より+6.3ポイントでやや高い。 ○「物のとけ方」と「電流のはたらき」において、市の平均正答率よりも約10～20ポイント高い。実験や観察など、体験を通した学習の成果だと考えられる。 ●実験結果やふりこのきまりをもとに推測したり推察したりすることについては市の平均正答率よりも約10～20ポイント低く、課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験結果をもとに、条件を変えた場合の結果を推測させたり、きまりをもとにどのような変化が起きるはずか科学的に思考する場面を設けたりするなどして、理解を深めさせ、定着を図る。 ・実験や観察など、体験を通した学習を今後も取り入れていきたい。また、実験の結果から、予想を検証して説明する活動も今後より一層取り入れていく。
生命・地球	・校内正答率は、77.9%で市の平均より-3.4ポイントでほぼ同じであった。 ●「人のたんじょう」の「受精卵」や「へそのお」などの働きを理解し言葉を選択する問題では、校内正答率は市の平均よりそれぞれ約10ポイント低い。 ●「生物とかんきょう」の地球上から酸素がなくなるという理由を説明する問題では、校内正答率は76.7%で市の85.9%より9.2ポイント低い。	・「人のたんじょう」において、名称に関する知識・理解を高めるためワークシートなどを活用する。また、映像や図などを用いて事柄の説明をするなどして学習の定着を図る。 ・ある事柄やきまりをもとにして、説明したり書き入れたりする活動や、考察して考えを伝える活動をグループやペアになって取り入れるなどして学習の定着を図る。

宇都宮市立上河内中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学び合いのある授業づくり 「主体的・対話的で深い学び」の創造	ペアやグループ学習などを取り入れ、児童が自信をもって取り組めるようにし、話し合い・教え合いを通して、思考の筋道をたどりながら、自分の考えを表現できるよう指導している。	「話をきちんと聞く」児童は、全体で95%、「話し合いに進んで参加している」は80%ほどいるが、「理由をあげて話をしている」児童は60%である。 話し合いに意欲的に参加できているが、根拠や理由をあげて分かりやすく表現することに課題がみられる。
学習のきまり(授業スタンダード)の徹底	1単位または、単元全体で「はっきり・じっくり・すっきり」を基本とした授業の展開を図っている。特に「すっきり(学習のまとめ・振り返り)」では、時間を確保し、ノートなどに記入するよう指導をしている。	「はっきり・じっくり・すっきり」の授業の展開を図った結果、「授業が分かる」児童は、全体で96%、ノートをまとめている」は80%と高かった。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「家庭学習のすすめ」を作成し、全家庭に配付するとともに、児童には家庭学習の取り組み方の指導をしている。宿題等の見取りを行い、宿題に取り組む意識の向上を図っている。	学習時間については、学校で定めた学習時間と同程度以上の取組をしている児童が、全体で75%で、家庭学習の習慣が身に付いている。休日を含めた学習時間が1時間を超えている児童の割合が昨年のに比べ10%増えた。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・ 4～6年生で、記述式の正答率が低い。国語では、表現力を育成するために「話す・聞く」の指導に引き続き取り組む。基礎となる「言語についての知識・理解・技能」を身に付けさせ、「読む」の指導の充実を図る。また、各教科で、自分の考えをノートに「書く」など、言葉にすることを授業の中に取り入れる。
- ・ 「理由をあげて話をしている」児童は60%であった。授業の中で、結論(答え)を発表するだけでなく、根拠や理由について考えたり意見を述べたりする時間を確保し、指導の充実を図る。
- ・ 学習意欲を高めるために、児童が興味をもって取り組めるような課題や、授業の展開を研究する。
- ・ 「家庭学習」の習慣化を継続して指導する。毎日の学習の内容を、自主学習などで計画的に復習するよう指導する。
- ・ 多読者表彰や本の紹介を積極的に行うなどの読書指導を継続して行う。